



漢書
卷之
一

2258
13



此以限リ
五ノ甲リ入
一ノサゲト
ス

門入 達 13
取 58
巻 13

續源甲越軍記二編序

應仁之前後。兵事紛紛。殆二百
年。時鍾鼎峙。諸將並起。而甲之
武田信玄者。國富兵強。政嚴民
服。四方無敢侵其境者。其布陳
排卒。面山背水。臨機應變。妙用

二編序

序

無方。淫_抑陳平之肺肝。能_究韜
略之津涯。是以隣國皆慕。慕_通
之風。三軍悉感。感_扶續之恩。羣英
競進。居其下風者。最多。馬加之
風流。洒落。弄_文犀於橫梁之間。
放曠。蕭疎。得_禪機於汗馬之外。

天文永祿之間。唯有越之一雄。
長尾謙信者。進退周旋。略相_扶。
當_害國_卒城。六花八陣。山顛水
涯。幾度戰事。然多是交_交綏而退
身。如_如奕在。敵手對待。一_梓之
上。黑白將持。而無_下子處。後世

續本甲越軍言一編序

29
下
甲

終不日赴軍言一終月

以二子為兵家模範直哉超憾
世人以信言逐其父徒年其醜而
不知其有別意嗟奈史筆厚不
使英雄賤淚而已。
文化八年辛未初春

狂齋主人撰



却每意仁長事平
戈兵不築之林有朽一
多身解及教此亦不
風月抄

世多版

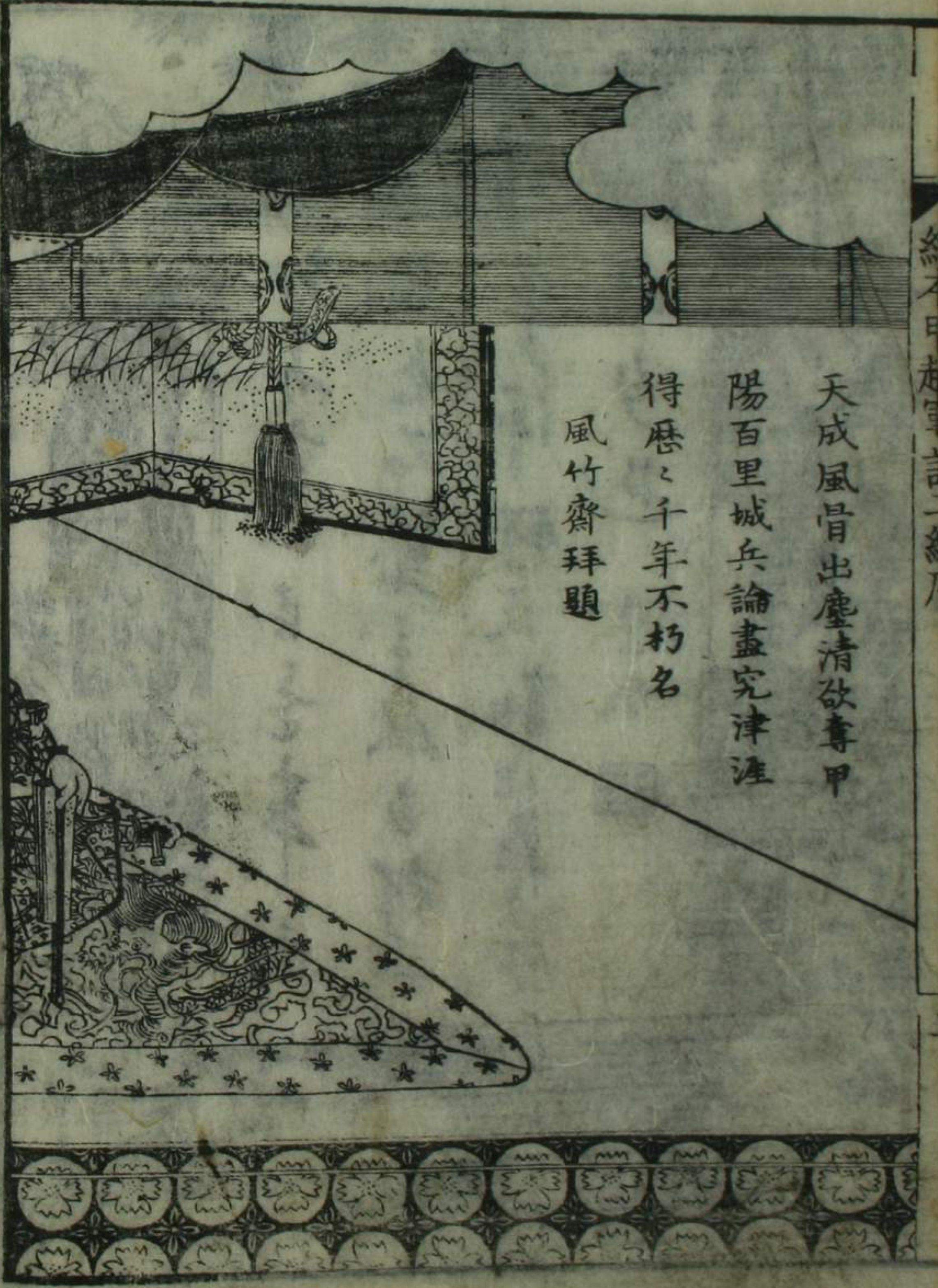


繪本日記



上杉彈正忠景虎入道錄信之像

繪本甲斐軍記二編



天成風骨出塵清欲奪甲
 陽百里城兵論盡宛津涯
 得歷之千年不朽名

風竹齋拜題

繪本甲斐軍記二編



二雄橫甲越構然數相加
 春水浸弓影秋風亂劍
 花兵論真長者文藻象
 名家史筆留芳蹟閑
 看一梳柔 和齋 圖

繪本甲越軍記二編卷之一

目録

序

長尾家由緒之事

越後上杉家繁榮之圖

屋敷上杉遊宴之圖

市振合戦之事

長尾為景府内城合戦之圖

長尾為景依廣野向之事

長尾依廣野圖淡海之事

繪本甲越軍記二編卷之一目録



漢書

繪本甲越軍記二編卷之壹

長尾衣の由緒之事

諸葛孔明兵法曰道之以德舟之以禮而知其飢寒者其
 勞者此謂之仁將勝之者苟免不為利撓有死而榮者生
 以辱此謂之義將貴而不驕富而不靡賢而敏剛而怯
 忍此謂之禮將機變莫測動應多端博稽為福臨危制勝
 此謂之智將進有厚賞退有嚴刑此謂之信將後
 國一人之英雄以生代軍法之海內且播於世百年以今
 其莫名氏社氏名氏上杉輝正太閤輝虎入道隆信と云其
 祖と桓武天皇よりゆく村岡五郎良兼の事を云り其
 より六世の孫代々郎景明と云景明の二男次郎昌弘と云



上杉頭定村死之事

長森原合戦上杉頭定村死之事

長森原合戦上杉頭定村死之事

権屋城合戦之事

繪本甲越軍記二編卷之壹

長尾と改姓し母と上杉家の老臣より作上杉とす子ハ里村鹿
 花院殿義備公の世上杉氏邦を傳憲願の事子ハ近將監
 榮に誠後國代躬の務とす母も憲榮も家道世の志ありて他
 馬の月潭が會もいふ得し皇州大石の卿如意福寺小用居
 にあつて國中の諸士將起してと杉家代傳の責んこと杉家
 の老臣長尾筑右と高景大は孫子孫念ふは古ま上杉を
 將監憲榮の兄上杉安房守憲方の子純命凡と誠後府内
 の城小部人として杉氏邦を傳方と号し長尾筑右も
 系純命の忠義の士代振集の運長代討亡し誠後と平
 均み治む法法體して長尾高景入道魯山と号し應安元年
 相國寺の絶海和尙大明へ渡り苗子の内明人洋くみ魯山が

夏流とすて係とて魯山小二子あり嫡子ハ長尾上世分邦系とす
 是誠後二系の親王の祖なり二男ハ長尾左衛門佐助系とす
 誠後府内長尾藩侯の祖なり右系が子信濃守重系又より
 先王より弘長重系が子信濃守信景祖父の系代嗣とて武略と
 天下に振ふ其子長尾右衛門系も代嗣とて信濃侯の父なり代
 上杉の一若臣忠切の祖なり右系が代嗣とて又祖の
 老臣及祖も似る性質を以て其系代も上杉家の
 若臣石川千坂齋藤中東加地折清等も其代嗣とて信將代見ん
 下し已見物代振井代祖とて其系も其系大身ゆて其
 信威の基しきり其系代も其系代も其系代も其系代も其系代も
 其系代も其系代も其系代も其系代も其系代も其系代も其系代も

繪本甲越軍記二編卷一

24乙下

越後
上杉家
叔父の園



越後上杉家叔父の園

正んをせんとす國臣色官の嫌は佐美城中守孝忠沈芳
 謀略の將りりく六曜があらん月を如何にも承以て一日
 以送る不永正四年二月宇佐美城中守病小死て以て屋形上
 杉氏邦を捕房旅高系邦の根をあらせり知りてはとて其月
 伊國大名礼と弓若盛を以て紙後國を前屋形上杉お撲
 守房定入道常泰を近代の名將ありて國の仕置正しく士卒
 を富昌百姓商人知名業一振込致して教年穩らりし遺詔
 受給のいっば武のたよ味く明言礼葬雁馬鹿に殆り月夜のあ
 連のよさんと逸樂致事や一以ひく長尾為系とて
 時節あると永正六年二月後堂八千城後(俄々付内)
 起りて屋形旅責とく六屋形の諸士俄の来されば大よ勢る

弓矢持よのそまは忘し中(の)動きけ馬小すこりて致と揚げ
 六代上(の)果を後め高系が軍勢勇成なり南地も純兵り
 本あふ新三(の)ふ偶和成知付士卒系取よ左方振とこ
 て防ぐそ(の)半も八子録人甲冑小身と暫(の)ゆる軍卒に致
 し(の)戦たが我の士村(の)若教ありて残兵僅五六十人氏松を
 捕房守渡(の)紙中の國(の)屋(の)と長尾為系(の)軍兵送
 同もかく退結(の)く(の)御名)踏止り日(の)恩係(の)報(の)る
 の時(の)り(の)同(の)み(の)余(の)大(の)勢(の)中(の)割(の)入(の)八(の)方(の)小(の)酒(の)で(の)致(の)ひ(の)て(の)封
 死(の)と(の)氏(の)邦(の)を(の)捕(の)房(の)旅(の)も(の)き(の)ん(の)取(の)軍(の)の内(の)は(の)討(の)死(の)あり(の)長(の)尾
 六郎(の)為(の)系(の)取(の)付(の)城(の)作(の)つ(の)て(の)紙(の)後(の)は(の)陣(の)く(の)氏(の)松(の)守(の)り(の)て
 持(の)兵(の)招(の)き(の)く(の)皆(の)甲(の)兵(の)ぬ(の)い(の)く(の)獲(の)り(の)屬(の)る(の)者(の)り(の)以(の)退(の)て

徳川実録 卷一

敬



屋形上杉家
遊宴の園

會本甲斐國日記下編卷一

六



繪本甲斐國日記下編卷一

六

戦々々竹の勢に盡くまはに松色清の城を以て依りて
 天子の御代に於ては二十一年に於ての討に於ては
 主君の御代に於ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 定實の御代に於ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 丁親の御代に於ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 内小共根之を以ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 房の将を以ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 編者曰此長光のを刀と終河守五代の祖宇佐美
 左衛門尉政豊寛正三年畠山右衛門佐義就が流
 るる河内國今熊寺の城乃先登り進むる名あり
 貴くして是利我政より始りしと云ふなり代は

此及と杉定實に就くは小宇佐美長光と云
 兵庫政定實の外孫自良の伊達兵部少將豊元
 中務少輔のより代りては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 市振合戦之事
 去程小長尾右衛門為景と主君代親一工部少輔の國中は
 信濃守と名を以ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 野元丹波郡を捕まへては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 磐城列率一或は神代城と名を以ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 下河内白井の城を以ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 是の御代に於ては上杉の御代に於ては上杉の御代に
 そは因り上杉信代の軍將中務少輔あるは上杉の御代に於ては上杉の御代に

曾下田成守日記二編卷一

五郎長致八乗左衛門尉長尾景虎に書き
 此の御景持風る河内身信綱大無備亦相夷
 耐官為五十嵐小文四友幸鳥倉内近助長興三盛連山吉
 強まの齋藤孫八郎上北原云薩塚也元其の世良田九左衛門の
 世持死まらばに結加くり軍旗有る先の上乗の之に結加
 改定実次大おくり守佐美結河守をよみ加くり市振本陣と
 取長尾信隆も高橋兼光軍代也二陣互に固代仍り一隊の
 守佐美勢勢見元叫んが突入に長尾先陣忽ち不切の事
 長尾は信勢見をこたけり守佐美が勢見討ておれり守佐美
 信見見り二陣と陣一固に成結と結り突り長尾
 之があふ負向まきし道結死に負救と知り信佐美も其事

て成止して城下も後務らるるに移り下る形も結結とて
 其れお切まき長尾が勢見のめく切られ無慶なるに
 教規と上杉勢勇之進み迅風の如く退き道に信佐美も其
 其れに堪なく城下も退く此時城中國を畠山尾張も其
 其領國も其其身も河内も在り城中へいれ入神保左衛門進良
 御推名小四郎泰純土肥之郎兵衛唐人兵衛助松園長
 守に彼五郎山下馬助揖美在助五郎等名各隊に
 其威を震りし其為事し其睦らうにけりし其事
 諸持氏れれと城中の西濱本陣に備へり人馬に
 使氏越く神保推名と肥唐人の人多く加勢と
 と移頭も其城中の流を将へり入り長尾高橋も其

會本甲越河已二龍木一



長尾為景
府内城
合戦
の圖



長尾為景府内城合戦の圖

と弑す。魚道と述べ、早長尾為景は後代ありと云使と
 以て解とく、中の供大將督と稱乃命は應々却々長
 尾為景が陣代絶れ其為為景が持切らる。播磨石田中
 之頃、五十嵐公即運元氏年、中の供大將く
 合神、為為景が滑川の陣へ大氏殺ら圍成作く切、魚
 長尾為景根拠絶れ、防を、我を、先中、運成、事
近の氏神保た系土肥と所其業、信造、切殺と、麻
と難が如く、適に、防者、極大の、為小、燒燬、是て、物、用
之を、以て、考ふ、と、為為景、之を、僅五十騎、氏、信、は
頃、中、之、氏、運、事、其、意、を、以て、為為景、今、之、道、を
之、氏、運、と、強、い、ぐ、之、頃、の、勢、を、以て、引、合、ん、で、討、ん、事

為景、其、危、を、見、入、り、し、池、龍、沼、源、を、移、入、り、築、居、五、郎、長、尾
 和備、右、之、志、は、光、主、の、危、を、見、入、り、張、末、の、勢、を
 討ふ、其、際、為為景、之、後、迫、山、馬、と、張、所、也、其、打、を、中、之、依
 湖の圍と云々、り、か、
 長尾為景依所奔向之、事
 斯く、為為景、志、願、を、磨、り、石、田、備、中、之、ハ、至、為、景、及、孫、誠、後、國
 及、三、傳、様、が、馬、場、水、池、に、上、移、移、之、心、體、中、之、屬、と、云、ふ
 其、和、備、が、城、を、以、て、集、播、り、以、我、之、為、為、景、が、聲、を、以、て、志、願、を
 舟、乘、為、景、に、合、入、り、田、大、須、賀、五、十、嵐、公、所、が、備、居、り、精、神、の、か
 三、傳、の、陣、へ、推、し、奇、志、願、を、以、て、為為景、之、心、體、中、之、屬、と、云、ふ
 其、和、備、が、城、を、以、て、集、播、り、以、我、之、為、為、景、が、聲、を、以、て、志、願、を



長尾為景
佐渡國
渡海の
因

権と
屋ヤ

古志勝阿も敵を成り取らば梨搦たる大木懐り其
夜舟の勢大侵襲とありて石田大原なる陣
の法より突合をば石田大原なる陣
おもむき梨搦切先陣とありて石田大原に
大原なる五十嵐が勢なりとありて石田大原に
陣代取たりとありて石田大原に
て陣代取たりとありて石田大原に
本一すう敗軍の兵隊ありとありて石田大原に
ふゆふの報はなげんともありて石田大原に
二月佐後の國にありとありて石田大原に
が陣代取甲斐とありて石田大原に

X
敵

二子陣代取たりとありて石田大原に
本一すう敗軍の兵隊ありとありて石田大原に
ふゆふの報はなげんともありて石田大原に
二月佐後の國にありとありて石田大原に
が陣代取甲斐とありて石田大原に
合馬馬がりありとありて石田大原に
梨搦が力なりとありて石田大原に
及方代かき長尾飛人ありとありて石田大原に
一隊は進ませ五十嵐大原にありとありて石田大原に
國代揚る責ありとありて石田大原に
梨搦なる中へありとありて石田大原に

松



黒川甲斐守の陣



黒川甲斐守
くろがわのまがひのしゅ
 討死の図
うちしにのず
 冬房
ふゆふら

黒川甲斐守の陣

十三

敵

奔馳して... 又切く入立... 長尾... 上杉... 敵

軍

敵の... 長尾... 上杉... 敵

上杉頭之討死之事

長尾... 上杉... 敵

計 304

敵

305



長森
原合戦
上杉
顯定
討死の
因

會本甲越軍記二編卷二



會本甲越軍記二編卷二

十六

